

入選

ばあばあボックス

神奈川県 西小学校

二年 細野 眞初

ばあばの「こき」(70才)のたん生日がありました。ばあばとじいじと、お母さんとお父さんとぼくと妹と、ゆきのりおじさんとそのえおばさんといっしょに、おんせんのあるホテルで、おいしいものをたべておいわいをしようと思いました。でも、コロナでたん生日会ができなくなってしまいました。

ぼくは、ぼくと妹のかおを見たら、ばあばが元気になると思いました。だからぼくは「ばあばあボックス」をプレゼントしようと思いました。

「ばあばあボックス」とは、くじびきのようなものです。はこの中には、ぼくと妹が生まれてから、コロナになるまでのばあばといっしょにうつっているしゃしんと、コロナになってからのぼくと妹だけのしゃしんが入っています。

しゃしんは、70まい入っています。りゆうは「こき」だからです。しゃしんのうらには、ばあばのいいところや、すごいところや、すきなところを書いてあります。

はこには、ぼくと妹がかいたばあばの絵が、右と左にはってあります。はこのうしろがわには、みんなでおいわいのメッセージを書きました。

はこの前がわの、しゃしんをひくところには、ビーズでのれんのようなものをつけました。はこぜんたいに、キラキラのシールでほうせきのようにかざりをつけました。

ぼくは、「ばあばあボックス」を“おたん生日おめでとう”という気持ちをこめて、みんなでつくりました。

ばあばにプレゼントをあげたら、ばあばはよろこんでいました。「うれしい」といって、なっていました。そして、「たからものにする」といっていました。

ぼくは、コロナであえなかったからさびしかったけれど、ばあばが元気になってくれてよかったと思いました。

コロナでも、気持ちがわかれば、元気はなくなるんだなあと思いました。